

無痛分娩 Q & A

Q 無痛分娩を受けたいのですが、どうしたら良いですか？

A 産婦人科医にお申し出ください。無痛分娩説明同意書の内容ご理解いただいた上で、無痛分娩を希望される方は**妊娠 34 週 6 日までに**産婦人科医に希望の旨をお伝えください。期日を超えた場合は計画無痛分娩（後述）を希望できない場合があります。

Q どのような方法でお産の痛みを取るのですか？

A 当院における無痛分娩の麻酔法は、無痛分娩を行う多くの施設で一般的に行われている硬膜外麻酔を用いた方法が主体です。硬膜外麻酔とは、背中の腰の辺りから硬膜外腔という場所に細い管（カテーテル）を挿入し、その管を通して麻酔薬を投与します。また状況によって、管を入れる際に脊髄くも膜下腔という場所にも麻酔薬を投与することがあります（脊髄くも膜下麻酔併用硬膜外麻酔）。無痛分娩を行うと、ほとんどの方で痛みがとても和らぎます。お産の進行に伴い痛みが出てくることがありますので、その際は安全の範囲内で適宜麻酔薬を調整します。麻酔薬の調整の方法は、プログラムされた機械による投与や医療スタッフによる投与など状況に応じます。

Q 無痛分娩のメリットは何ですか？

A 無痛分娩でお産の痛みが緩和されることで、リラックスしてお産することができます。お産後の体力回復が早いという意見が聞かれることがあります。お産の痛みによる血圧の変動を少なくしたり、酸素消費を抑えたりすることが期待できることから、心臓・血管や脳の病気などをお持ちの方には、無痛分娩を推奨することがあります。

Q 無痛分娩は誰でも受けられますか？

A 当院では、妊娠 36 週 0 日以降の単胎妊婦さんに対して無痛分娩を行っております。多胎妊娠の方、検査の結果、出血が止まりにくい傾向のある方、重篤な妊娠合併症をお持ちの方、重篤な全身感染症の方は、無痛分娩を受けることができません。個別に説明いたします。

Q 麻酔科受診は必要ですか？

A この Q&A と無痛分娩説明同意書の内容をご理解いただき、麻酔に関するご質問が特にない場合は、入院前の麻酔科受診は必ずしも必要ではありません。麻酔についての質問や不安なことがあって、麻酔科医からの入院前の説明を希望される方には、周産期麻酔外来（木曜午前）のご予約をお取りいたしますので、産婦人科医にお申し出ください。心臓、血液、脳、神経、脊椎のご病気をお持ちの方や肥満傾向の方については周産期麻酔外来（木曜午前）を受診いただく必要がありますので、お申し出ください。

Q 無痛分娩は計画（誘発）分娩ですか？

A 当院では、計画無痛分娩（日程を決めて陣痛を起こし麻酔を導入する方法）と自然陣痛発来後の無痛分娩の両方を行っています。確実に麻酔を行うという点では、計画無痛分娩を推奨していますが、入院期間・分娩所要時間が長くなる場合があります。入院予定日より前に破水・陣痛発来した場合も可能な限り対応していますが、麻酔科医が手術室で緊急対応している時間帯は、安全に無痛分娩を提供することが難しい状態となります。そのため、麻酔開始をお待ちいただく場合や、お断りせざるを得ない場合があります。あらかじめご了承ください。

	メリット	デメリット
計画無痛分娩	○分娩予定をたてることができる ○確実に麻酔を導入できる	○入院期間・分娩所要時間が長くなる場合がある
自然陣痛発来後の無痛分娩	○分娩進行がスムーズなことが多い	○他の業務のため無痛分娩が行えない場合がある

Q 計画無痛分娩のスケジュールを教えてください。

A ①初産婦さんの場合

妊娠 39 週台に入院します。（入院日は当院から指定します。）入院当日は子宮頸管の状態に応じて分娩誘発剤や子宮頸管拡張材、メトロイリント（小さな風船のような医療器具）を使って子宮頸管を熟化させます。入院翌日に陣痛促進薬を開始し、この日のお産を目標にします。入院翌日の朝、分娩誘発剤を投与する頃に麻酔のカテーテルを入れ、麻酔薬を開始していきます。初産婦さんでは、経産婦さんよりも分娩誘発に時間がかかることがほとんどで、入院からお産までに数日かかることもあります。

②経産婦さんの場合

妊娠 38 週台に入院します。（入院日は当院から指定します。）入院当日は胎児心拍陣痛モニタリングや血液検査を行います。子宮頸管熟化が乏しい場合は頸管熟化処置を行うことがあります。入院翌日の朝、分娩誘発剤を投与しつつ麻酔のカテーテルを入れ、麻酔薬を開始していきます。当院では、経産婦さんの 9 割以上がこの方法で入院翌日にご出産されています。

*なお、入院予定日より前に陣痛が始まってしまうことがあります。その場合は**自然陣痛発来後の無痛分娩と同様の対応になる**ことをご了承ください。

Q 計画無痛分娩をしない場合（自然陣痛発来後の無痛分娩）の麻酔のタイミングはいつですか？

A 陣痛が始まったことにより、妊婦さん自身が「痛みを緩和したい」と感じた時に、産科医や助産師が分娩進行状況を確認したうえで、相談して麻酔を開始しています。麻酔科医が手術室で緊急対応している時間帯は、安全に無痛分娩をご提供することが難しい状態となります。そのため、麻酔開始をお待ちいただく場合や、お断りせざるを得ない場合があります。あらかじめご了承ください。

Q 無痛分娩は赤ちゃんやお産への影響はありませんか？

A 硬膜外腔へ投与された麻酔薬は、ほとんど赤ちゃんへは移行しません。硬膜外麻酔によって、分娩時間が長くなることがあります。また、硬膜外麻酔によって、陣痛促進薬の使用が増えたり、鉗子分娩や吸引分娩が増えたりすることが知られています。硬膜外麻酔によって、帝王切開率が増えることはありません。無痛分娩を開始してすぐに、赤ちゃんの心拍数が一時的に低下することがあります。これは、強いお産の痛みが急激に緩和されたときにより起こりやすいと報告されています。赤ちゃんの心拍数が低下したときに迅速に対応すれば、その後の分娩経過や赤ちゃんの状態に影響することは稀です。

Q 無痛分娩の副作用・合併症が心配です。

A 無痛分娩の安全性は確立されていますが、一つの医療行為ですのでいくつかの副作用・合併症が報告されています。硬膜外麻酔をしている間は、お母さんの心電図、血圧、酸素飽和度を定期的に観察し、赤ちゃんの心拍モニターを継続して行い、対応が必要な状況が認められた場合、迅速に適切に対応します。副作用・合併症とその対応法については、無痛分娩説明同意書に詳しく記載していますので、そちらをご確認ください。麻酔についてより詳しい説明をしてほしい方やご質問のある方は、周産期麻酔外来を受診いただけます。

Q 背中からの麻酔（硬膜外麻酔）はいつ終了しますか？

A 麻酔薬は赤ちゃんが産まれて、お産の処置が終了するまで、カテーテルを通して継続的に投与します。お産後の痛みに対しては、内服や点滴の痛み止めで対応しています。

Q 無痛分娩から帝王切開に変わるときの麻酔はどうするのですか？

A 無痛分娩の硬膜外カテーテルをそのまま使用する場合と脊髄くも膜下麻酔を新たに行う場合があります。どちらを選択するかは、状況により麻酔科医が判断します。また、状況により全身麻酔を選択する場合もあります。

Q 無痛分娩の費用はどのくらいですか？

A 当院では無痛分娩の費用として、通常の分娩費用に加えて 20 万円をいただいております。このなかには無痛分娩に使用する特殊な針や麻酔薬の料金も全て含まれています。無痛分娩を始めた時点で費用が発生します。また、分娩誘発で使用する薬剤や器材の費用は全て分娩費用に含まれているため、原則追加費用はかかりません。

Q 無痛分娩の麻酔は誰が担当するのですか？

A 当院の無痛分娩は、麻酔科医が実施・担当しております。麻酔科医は麻酔科専門医または麻酔科標榜医のいずれかの資格を有しています。当院は教育・研修病院であり、無痛分娩麻酔担当医と共に研修中の医師が麻酔に関与する場合があります。

無痛分娩をお考えの方は下記コンテンツもご参照ください。

◆当院の無痛分娩説明同意書

◆当院の無痛分娩マニュアル

◆無痛分娩についてもっと詳しく知りたい方へ

⇒日本産科麻酔学会無痛分娩 Q&A | 一般社団法人 日本産科麻酔学会 (jsoap.com)

<https://www.jsoap.com/general/painless>